

博報堂生活総合研究所 「時間に関する意識調査」結果発表

生活を「高速化したい」57% vs 「低速化したい」43%

20年前との比較では、「高速派」が激増して「低速派」を凌駕
かつて「低速派」だった20代も、今や「高速派」が71%で最多

超高齢社会、100年人生、働き方改革、副業、時短商品、ナイトエコノミー、タイムシフト……。最近、話題に上ることが多い、こうしたキーワードに共通するテーマは「時間」。今、時間の使い方が見直され始めているといえます。

このような環境のもと、生活者の意識や欲求はどこに向かおうとしているのでしょうか。博報堂生活総合研究所では、その変化ベクトルを把握すべく、20~69歳の男女に「時間に関する意識調査」を実施しました(調査概要は4ページに記載)。

この調査を20年前(1999年)との比較が可能な時系列質問も含めて分析した結果、生活の高速化欲求が大幅に増加。特に、高速化を牽引する20代を中心に上の年代とは異なる欲求の高まりがみえてきました。

調査結果のポイント

生活行動に関する速度欲求

2019年、「高速派」(57.4%)が「低速派」(42.6%)を上回る。

20年前との比較では「高速派」が+20.0ポイントの激増で、高低の力関係が逆転。

速度欲求に世代格差あり。下の世代は「高速派」、上の世代は「低速派」。

かつて「低速派」だった20代も、今や「高速派」が71.3%で最多となっている。

- 生活行動に関する速度欲求をみると、2019年は「高速化したい」が57.4%で「低速化したい」の42.6%を14.8ポイント上回る。
- 速度欲求を20年前と比較すると、「高速派」は1999年37.4%から2019年57.4%と+20.0ポイントの激増。20年前、全年代で多数派だった「低速派」を超える結果となった。
- 2019年の速度欲求には世代格差がみられ、20~40代は「高速派」、50~60代は「低速派」が多数派。
- 下の年代で多い「高速派」は20代が71.3%で最多。高速化を牽引している。

時間の使い方に関する欲求

効率的な時間の使い方に関する欲求(「自由時間に予定を入れたい」「物事は素早く進めたい」「複数のことを同時にこなしたい」「複数のことを同時にこなしたい」)は若年ほど高く、20代が最多。

- 時間の使い方に関する欲求をみると、「自由時間に予定を入れたい」「物事は素早く進めたい」「複数のことを同時にこなしたい」のいずれの欲求も若年ほどスコアが高い傾向がみられ、20代が最多。
- 時間の使い方について、20代を中心に上の年代とは異なる欲求の高まりがみられた。

[自由時間に予定を入れたい vs 予定を入れたくない]

- 全体では、「自由時間に予定を入れたくない」(58.6%)が「予定を入れたい」(41.4%)を17.2ポイントと大きく上回る。
- しかし、20代のみ欲求の力関係が逆転。「予定を入れたい派」が54.0%で過半数。
- 「予定を入れたい派」は、20代を中心に若年ほど多い結果となった。

[物事は素早く進めたい vs じっくり進めたい]

- 全体では、「物事はじっくり進めたい」が54.0%で「素早く効率的に進めたい」46.0%を8.0ポイント上回る。
- しかし、20代のみ「素早く効率的に」(62.5%)が「じっくり考えて」(37.5%)よりも多く、その差も25.0ポイントと大きい。

[複数のことを同時にこなしたい vs ひとつのことに集中したい]

- 全体・各年代ともに「ひとつのことに集中したい」人が「複数のことを同時にこなしたい」人よりも多い傾向。
- 唯一、20代のみ「ひとつに集中」「複数を同時に」がともに50.0%で、欲求は二分される結果になった。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社博報堂 広報室 玉・大野

TEL: 03-6441-6161

生活行動に関する速度欲求

2019年、「高速派」(57.4%)が「低速派」(42.6%)を上回る。
20年前との比較では「高速派」が+20.0ポイントの激増で、高低の力関係が逆転。
速度欲求に世代格差あり。下の世代は「高速派」、上の世代は「低速派」。
かつて「低速派」だった20代も、今や「高速派」が71.3%で最多となっている。

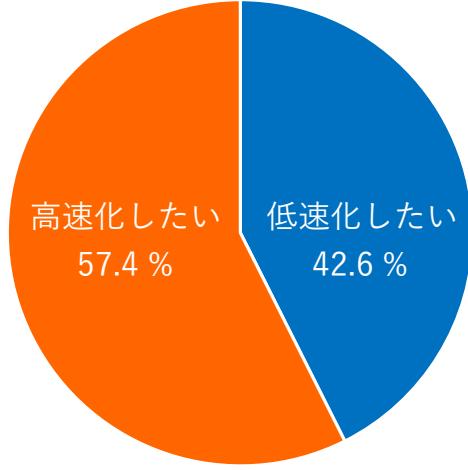
- ・生活行動に関する速度欲求をみると、2019年は「高速化したい」が57.4%で「低速化したい」の42.6%を14.8ポイント上回る。
- ・速度欲求を20年前と比較すると、「高速派」は1999年37.4%から2019年57.4%と+20.0ポイントの激増。20年前、全年代で多数派だった「低速派」を超える結果となった。
- ・2019年の速度欲求には世代格差がみられ、20~40代は「高速派」、50~60代は「低速派」が多数派。
- ・下の年代で多い「高速派」は20代が71.3%で最多。高速化を牽引している。

生活行動に関する速度欲求

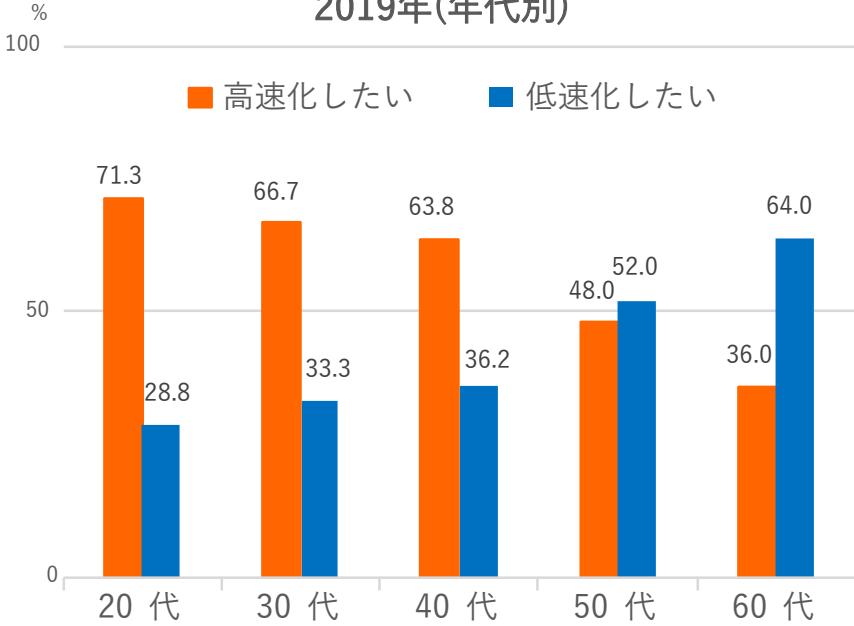
Q

あなたは日頃の行動(仕事や家事、遊びなど)を、今よりスピードアップして高速化したいですか。
それとも、ゆっくりと低速化したいですか。(単一回答)

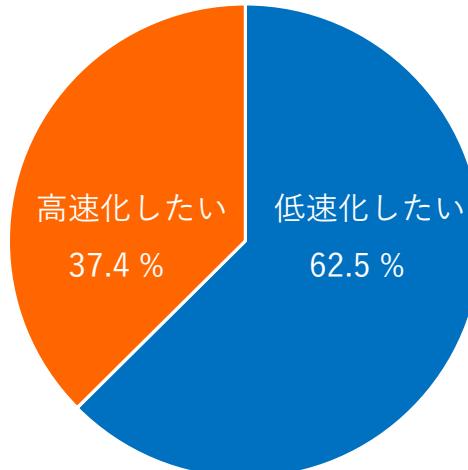
2019年(全体)



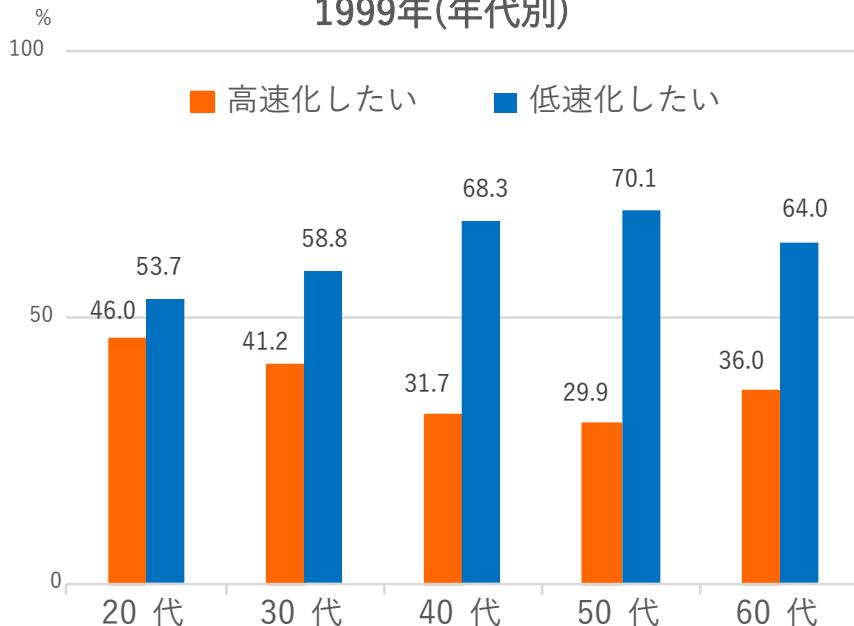
2019年(年代別)



1999年(全体)



1999年(年代別)



時間の使い方に関する欲求

効率的な時間の使い方に関する欲求(自由時間に予定を入れたい、物事は素早く進めたい、複数のことを同時にこなしたい)は若年ほど高く、20代が最多。

- 時間の使い方に関する欲求をみると、「自由時間に予定を入れたい」「物事は素早く進めたい」「複数のことを同時にこなしたい」のいずれの欲求も若年ほどスコアが高い傾向がみられ、20代が最多。
- 時間の使い方について、20代を中心に上の年代とは異なる欲求の高まりがみられた。

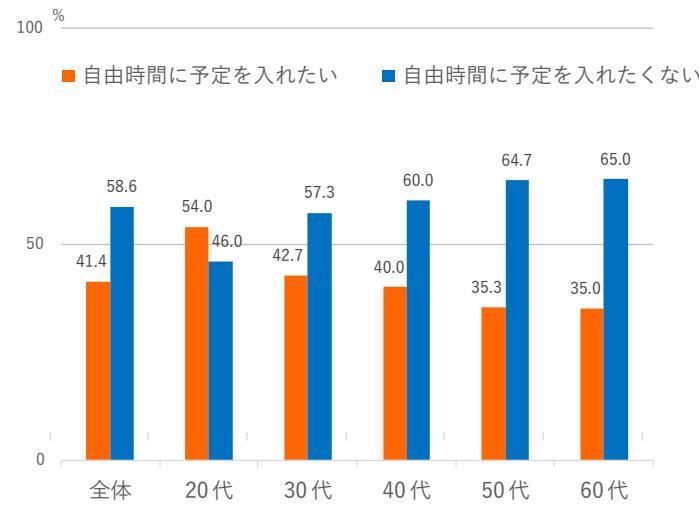
時間の使い方に関する欲求

Q

時間の使い方に関する各項目について、今後のあなたの欲求はどちらに近いですか。
それぞれの項目ごとにお答えください。(各.単一回答)

[自由時間に予定を入れたい vs 予定を入れたくない]

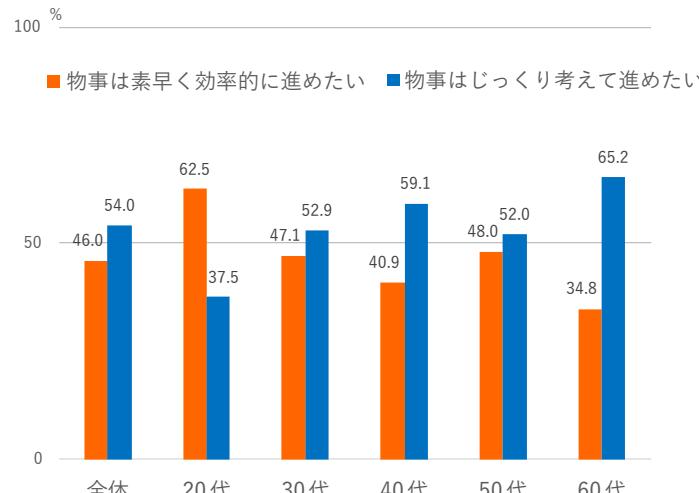
- 全体では、「自由時間に予定を入れたくない」(58.6%)が「予定を入れたい」(41.4%)を17.2ポイントと大きく上回る。
- しかし、20代のみ欲求の力関係が逆転。「予定を入れたい派」が54.0%で過半数。
- 「予定を入れたい派」は、20代を中心に若年ほど多い結果となった。



博報堂生活総合研究所 時間にに関する意識調査[全国] (2019年)

[物事は素早く進めたい vs じっくり進めたい]

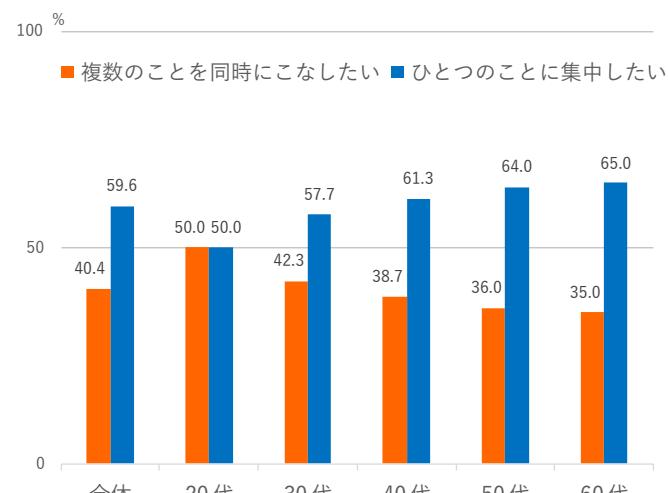
- 全体では、「物事はじっくり進めたい」が54.0%で「素早く効率的に進めたい」46.0%を8ポイント上回る。
- しかし、20代のみ「素早く効率的に」(62.5%)が「じっくり考えて」(37.5%)よりも多く、その差も25.0ポイントと大きい。



博報堂生活総合研究所 時間にに関する意識調査[首都圏] (2019年)

[複数のことを同時にこなしたい vs ひとつのこと集中したい]

- 全体・各年代ともに「ひとつのこと集中したい」人が「複数のことを同時にこなしたい」人よりも多い傾向。
(全体:「ひとつに集中」59.6%、「複数を同時に」40.4%)
- 唯一、20代のみ「ひとつに集中」「複数を同時に」がともに50.0%で、欲求は二分される結果となった。



博報堂生活総合研究所 時間にに関する意識調査[全国] (2019年)

時間に関する意識調査[首都圏]

(2019年)

調査地域 首都圏40km圏
調査手法 インターネット調査
調査対象 20～69歳の男女 500人
調査時期 2019年9月
企画分析 博報堂生活総合研究所
実査集計 株式会社 H.M.マーケティングリサーチ

(1999年)

調査地域 首都圏40km圏
調査手法 訪問留置調査
調査対象 20～69歳の男女 1,500人
調査時期 1999年1月
企画分析 博報堂生活総合研究所
実査集計 株式会社 東京サーベイ・リサーチ
(現.株式会社 H.M.マーケティングリサーチ)

時間に関する意識調査[全国]

調査地域 全国
調査手法 インターネット調査
調査対象 20～69歳の男女 1,500人
調査時期 2019年9月
企画分析 博報堂生活総合研究所
実査集計 株式会社 H.M.マーケティングリサーチ

※2019年と1999年で、調査手法と対象者人数が異なることに、ご留意ください。